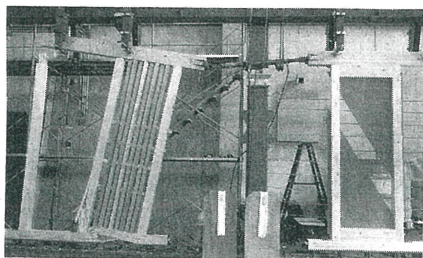


ものつくり大学発

▷ 56 ◁



この「綱引き」の面白さを取り入れたイベントが、「木造耐力壁ジャパンカップ」である。人間の代わりになる体の木造の壁（耐力壁）が「綱引き」をして、強さを競い合う

木造壁の綱引き大会



おの・やすし 関東学院大学大学院工学系研究科建築学専攻修士（工学修士）。（公財）日本住宅・木材技術センター試験研究所を経て2003年ものつくり大学、11年より現職。専門は木質構造、木造建築物の耐久性

を並べて設置し、双方の壁を油圧ジャッキでつないで、震化への技術開発を促すという目的で、98年、日本建築を勉強する学生はもとより、大手民間企業の設計者や現場

監督、大工職人、木材問屋、金物メーカー、研究機関などからなり、学生または企業の単独チームでも混成チームでも参加できるオープン競技であった。

加する学生たちの協力は欠かせないものであった。本大会で好成績を収めるには、木材の材料特性と接合部の工夫が大事で、強度と粘り強さを兼ね備えた性能が要求され

先に記したように、本大会る

「綱引き」による勝負は、壁の変形と共にバキバキ・メキメキという木材の割れる音が、その場を盛り上げ、どちらかの壁が破壊した時点で決着するのである。本大会は17年で終了したが、翌18年から若手の後継者達が運営する「壁―グランプリ」として継続されている。今年も10月25日、ものつくり大学で決勝大会が行われるのでぜひとも来校を願う。